

5. 事業報告

◆個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

22年度より岡町、庄内、千里、野畑4館で始めた祝日開館は、開始当初に比べて利用者に広く知られるようになった。23年度成人書の個人貸出冊数は2,059,249冊(対前年度比2.2%減)、14歳以上の個人貸出人数は、827,313人(1.6%減)となり、やや減少傾向にある。図書館別で見ると個人貸出冊数で千里が513,376冊(2.3%増)、個人貸出人数で千里211,532人(2.6%増)と服部83,276人(0.005%増)が増加しているが、その理由として23年5月より開始した吹田市との広域利用サービスでの貸出が交通の便のよい千里に集中したこと等が挙げられる。

インターネットや携帯サイトから必要な資料だけをリクエストしてカウンターで受取る利用方法がさらに定着したことや、継続手続きの浸透(貸出冊数約20万件。統計には反映されていない)が考えられる。資料種別では視聴覚資料(CDなど)の貸出件数の減少が顕著であり、新規資料の購入などの予算獲得が課題となっている。

リクエストについては、23年度の個人予約計689,133件(対前年度比0.7%増)のうち、カウンター窓口受付が174,318件(3%減)、館内OPAC(利用者端末)が50,639件(8.7%減)、Webが447,674件(3.5%増)、携帯サイトが16,502件(7.5%増)となっている。本棚を眺めて本を探す従来のブラウジングから検索機能を駆使して目的の資料を探り当てるWebブラウジングに移行してきていることが伺える。

Webサービスを充実させるとともに、利用者にとって図書館が居心地のよい、新しい知識との出会いの場になるようめざしたい。今後も館内ディスプレイ、棚づくりを創意工夫し、資料情報の案内人として一層信頼されるよう職員の資質向上に努める。

<ヤングアダルト(YA)サービス>

図書館は、YA世代(概ね12歳から18歳)にとって①魅力がある「場」②情報発信・情報交流の「場」③地域や未来とつながる「場」となるよう努めている。

・YAコーナーの充実

YA世代についての情報の提供、図書館間で資料を有効活用し、YAコーナーを展開している。映画の原作や成人式に絡めた企画展示や、カードを使ったおすすめ本紹介など、利用者・中学校司書・中学生との意見交換をもとに、魅力ある棚づくりを行っている。

・高校の学校案内が閲覧可能に

市内9校すべての高校の学校案内を収集。全館で情報提供し、幅広い利用者から好評を得た。毎年参加している近隣高校の文化祭展示で、図書館のPRを行った。

・フリーペーパーを活用して図書館のPR!

「YA! BOOKS通信」を千里図書館から2回発行し、近隣の中学校・高校・書店や商店に配布した。取材を通じて、図書館のPRだけでなく地域情報の収集や地域との交流につながった。

平成23年4月 Vol.8「YA! BOOKS紹介号」YAコーナーの紹介、ボランティア登録のお知らせ。

平成24年1月 Vol.9「“せんちゅう”(=千里中央)」千里近隣の公園や書店をお散歩MAPで紹介。

表紙は刀根山高校美術部に依頼。

・「千里コラボまつり」など行事で地域と交流

「高校生！ライブ&ダンス」 せんちゅうパル北広場にて約 300 人の観客を前に熱演し好評を得た。豊中市内 9 校に呼びかけ、4 校が参加。司会進行も高校生が担当。また、打ち合わせや準備等を通じ、図書館と学校、生徒と担当顧問の学校間交流もあった。

「おりがみ教室」 大学生ボランティアが図書館のおりがみの本を活用して実施。保護者も含め多くの参加があった。

「ふゆのおたのしみ会」 学生ボランティアが企画から参加。読み聞かせや工作などを子どもと一緒に楽しんだ。



千里コラボまつり 高校生！ライブ&ダンス



ふゆのおたのしみ会

<こども室・児童書コーナー>

平成 23 年度の児童書の個人貸出冊数は 949,225 冊（対前年比 1.6%減）、14 歳以下の貸出人数は 159,709 人（6.5%減）であったが、30 代の絵本・児童書の利用は増えており、保護者が子どものために利用している姿がうかがえる。

子ども読書活動推進計画の進捗にともない、子どもを取り巻く大人への働きかけや中高生へのサービス、さまざまな理由で来館が困難な方への利用の掘り起こし等に重点を置いて取り組んできた。

ブックスタート事業「えほんはじめまして」の取組みや市内の子育てサロンへの出前講座、乳幼児を対象としたおはなし会など、乳幼児向けのサービスを継続的に行うことで、一定の成果をあげている。学校との連携では、小学校 3 年生の図書館見学「ようこそ図書館へ」、中学生の職場体験学習（CUL）の受け入れのほか、23 年度は、交付金による調べ学習や教員支援の資料の充実を図った。今後は、土日・祝日・夏休みなど、休日におはなし会を実施するなど、小学生が利用できる時間に合わせて図書館を PR していきたい。

◆団体貸出サービス

学校、放課後こどもクラブ、幼稚園、保育所（園）、子ども文庫およびおはなしボランティアグループ、高齢者施設、読書会等自主的な活動グループで、10 人以上の利用者を有する団体に資料の団体貸出を行っている。図書館では読書相談などを行っている。

<学校図書館>

23 年度の小・中学校図書館への貸出冊数は 49,522 冊（うち継続貸出 10,672 冊）となった。21 年度からは、要望に応じ 1 学期ごとに上限 50 冊の長期貸出を行っている。公共図書館からの

支援サービスについては、「とよなかブックプラネット事業」の進捗と、庄内幸町図書館の「学校支援ライブラリー」活用にあわせて、継続的に検討していく。

毎年、学校図書館と公共図書館司書との地域館交流会を行っているが、23年度の交流会では、各校で行われている「朝の読書」の実施状況や調べ学習について報告と意見交換を行った。また読み聞かせや検索方法など、新任学校司書に向けての研修を実施した。

今後も、児童・生徒の読書活動を支援するとともに、調べ学習等の授業への資料提供を行っていく。

＜放課後子どもクラブ・幼稚園・保育所（園）等＞

23年度の保育所（園）の貸出冊数は30,480冊（対前年度比6%増）、幼稚園は2,931冊（対前年度比2.2%増）23年度も民間保育園保育士向け絵本講座を開催した。子ども読書活動推進計画の理念が共有され、利用の促進につながっている。

放課後子どもクラブの23年度の貸出冊数は12,140冊（対前年度比4.2%減）、配本校は41校となった。また、蛸池人権まちづくりセンター、豊中人権まちづくりセンター児童館に対しても、行事や取組みに必要なテーマの資料を貸出している。

＜子ども文庫＞

平成23年4月時点で13ヶ所の子ども文庫があり、「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は9カ所。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動を長年にわたって行っている。子ども達の身近な居場所として、また子どもを取り巻く大人たちの交流の場として地域に根付いている文庫活動を支援するために、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供している。23年度は4,986冊の貸出があった。

毎年、子どもと本のまつり・子どもと本のつどいを共催で行っている。

＜おはなしボランティア＞

豊中紙芝居の会、千里ストーリーテリングの会、野畑おはなしの会、おはなしたまてばこ、お話探検隊など、市内で約40のグループが各小学校への読み聞かせを中心に活動している。

なかでもボランティア養成講座から派生したグループ「おはなしボランティア ポケット」は、80名を超えるメンバーで構成され、活動の幅を広げている。図書館では、おはなし会に用いる絵本のレファレンスや資料相談に応えている。

23年度の読み聞かせのボランティアグループへの貸出冊数は15,379冊（対前年度比9.6%増）となり、増加の要因としては、小学校の朝の読書の時間等でボランティアとして活動する市民（主に保護者）が増えたことがあげられる。読み聞かせボランティアの活動場所も増加している。今後も資料・情報を提供し、フォローアップ講座の開催など活動の支援を継続していきたい。

＜高齢者・福祉施設＞

23年度は、高齢者施設・福祉施設の798団体に8,738冊貸出した。

高齢者施設へは、各図書館で団体貸出を行っているが高齢者人口増にともない、近年地域に新たに増設され、図書館利用への需要も増してきている。

福祉施設へは、岡町図書館などで配本サービスおよび来館によるサービスを実施している。

今後も各施設と連携しながら、需要に合わせたサービスのあり方を検討していく。

◆動く図書館による巡回サービス

＜一般ステーション＞

図書館から遠く離れた地域の市民に、動く図書館「とよ1ぶっくる」が約3,000冊の資料を積んで市内を巡回し、貸出を行っている。現在は18ヶ所を約4週間に1回巡回している。

平成23年度、動く図書館の年間貸出人数は7,538人（対前年度比9.5%減）、年間貸出冊数は73,019冊（前年度比5.5%減）。猛暑の影響で夏期の貸出人数・冊数ともに前年度より減少傾向であった。23年度も地域子ども教室カーニバルでの「とよ1ぶっくるがやってきた！」を実施し好評だった。

＜施設ステーション＞

図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、動く図書館「とよ1ぶっくる」が巡回している。23年4月現在、市立保育所3ヶ所、民間保育所3ヶ所、支援学校2ヶ所・障害児通園施設2ヶ所へ約4週間に1回巡回している。保育所4ヶ所では卒園するクラスを対象に、図書館職員によるおはなし会を実施し、支援学校・障害児通園施設では、おはなしボランティアグループに依頼し「おはなし会がやってきた！」を4ヶ所、全7回行った。

◆図書室

いぶき図書室には約7,000冊の資料があり、週2回、水曜日と土曜日の午後1時から5時まで開室している。また第1・第2水曜日にボランティアの協力を得ておはなし会を行っている。23年度の貸出冊数は25,428冊で前年度より9.2%増加している。定期的な蔵書の入れ替えやPRが、一定の成果をあげている。

豊島西小学校内に開室したバス図書室（20年12月～）は車内に約2,000冊の資料を備え、週1回、日曜日の午後2時から4時まで開室している。車両更新にともない廃車となった動く図書館車を図書館未整備地域の小学校校内に設置し、図書室として活用している。23年度の貸出冊数は1,412冊であった。

◆レファレンスサービス

調査・研究・読書相談・日常における疑問などについて、資料、情報の提供や関連機関の紹介などの業務がレファレンスサービスである。来館・電話・e-レファレンス（ホームページ）による調査依頼に応えている。

調査・研究のための資料・情報提供のレファレンスをはじめとする総件数が、23年度は80,881件（対前年度比約9.8%増）となった。

23年度は、レファレンス事例の図書館システムへの蓄積も進み、さらに、国立国会図書館のレファレンス協同データベースへ約300件のレファレンス事例の登録も行った。また、豊中市立図書館のホームページ上でも、レファレンス事例の検索や、閲覧ができるよう整備した。今後も、さらにレファレンスサービスの市民への周知、利用増加を目指してホームページ、チラシ等でPRを図っていく。

◆行政へのサービスと連携

行財政再建対策室、職員研修所、情報政策室と連携し、行政組織内の施策立案能力の向上をめざした“庁内仕事応援サイト”を開設して1年が経過した。アクセス件数は、トップページが4,969件、トヨタター（情報掲示板）3,125件。23年度は、特に子ども・教育分野の新着リストのアクセス件数が増えた。また、庁内へのレファレンスサービス件数は、22年度の約4倍となった。

23年3月の東日本大震災時には、サイト内に震災関連情報のコーナーを作成し、市や職員、救助活動を行った消防や各課の動きを知らせ、関連するサイトや資料の紹介を行った。

また新規採用職員、新任係長等の研修時に、チラシの配布および当該サイト・図書館のPRを行ったほか、庁内の電子掲示板を使って、毎月の新着リスト紹介、レファレンスサービスのPRを行った。今後も関係部局との連携を深めながらニーズをくみ取りサービスにつなげていく。

◆資料の収集と保存

市内全館の資料の選書は、職員で構成する選書委員会が毎週1回行う。収集の基本方針に基づいて、生涯学習を支えるため市民の要望及び社会の動向に配慮し、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常の生活に役立つ資料を収集している。

23年度は、さらに「住民生活に光をそそぐ交付金」1800万円を活用し、暮らしに密接な分野として、「医療・健康情報」（岡町図書館）、「多文化共生」（庄内図書館）、「ビジネス・就業」（千里図書館）、「子育て・DV（ドメスティック・バイオレンス）」（野畑図書館）のテーマごとに館を超えたチームを結成、関連部局とも相談し、選書を行い資料の充実をはかった。

野畑書庫がすでに飽和状態に達しているなか、府立図書館や他市の図書館との相互貸借制度の利用も行いつつ、豊中市立図書館の蔵書の構築・保存に努めていくことが課題である。

◆障害者サービス

身体上の都合で来館できない市民に、郵送・宅配により資料を貸出している。

視覚に障害がある方には、録音図書（音訳図書やデージー図書）・点訳図書を収集・貸出し、対面朗読を実施。岡町・庄内・千里・野畑・高川・蛍池図書館には、拡大読書器を設置するとともに、大活字本は全館で提供している。

耳の不自由な方には、手話・筆談等による対応を行ない、千里、蛍池図書館には、補聴器用の磁気ループを設置している。

障害者サービスは、ボランティアグループの協力を得て行っており、音訳ボランティアフォローアップ研修講座の開催などの活動支援も行っている。

今年度は、日本図書館協会と国立国会図書館関西館主催の「障害者サービス担当職員向け講座」を職員が受講。実習館としても協力し、3名を受け入れた。図書館のホームページには、新たにサピエ図書館の案内や、点字図書・デージー図書の到着案内を掲載している。障害福祉センター「ひまわり」との連携が、デージー図書の利用者増加につながっている。今後も潜在的な利用の掘り起こしに努めたい。

また、製薬会社の点訳ボランティアから、昨年度に引き続き点訳絵本の寄贈を受けた。

※音訳図書＝目の不自由な方などのためにカセットテープにふきこんだもの

※デジター図書＝CD-ROMに音声情報を記録したもの

※磁気テープ＝マイクを通した明瞭な音声を聞くためのシステム

※サピエ図書館＝点字図書や録音図書の全国最大の書誌データベース(約53万件)

◆多文化サービス

岡町図書館こども室の「世界のこどもの本の部屋」では、日本語以外の言語を母語とする児童のために、世界の各言語で書かれた子どもの本を収集し、貸出している。現在、蔵書数は8,002冊であり、購入や寄贈などにより少しずつ増加している。また、ハンゲルや中国語など英語以外の言語資料の書誌作成もすすめている。

岡町図書館と庄内図書館では、国際交流協会のボランティアグループ「おやこでにほんご」が中心となり、それぞれ、「おかまちおやこでにほんご」、「しょうないおやこでにほんご」として日本語学習や情報交換の場として活動している。

平成23年度は多文化共生支援として、豊中に住む外国人成人への資料提供のため、中国、韓国、ブラジル、フィリピン、台湾、ベトナム、スペインの成人書を計426冊、その他、外国語の絵本などを1,085冊購入、庄内図書館で多文化共生コーナーを設けた。

今後、図書館ホームページへ言語別の資料リストを掲載することで、外国語資料も利用しやすい環境を整えていきたい。

◆企画グループ

「特集展示」の各館巡回を、継続実施している。図書館ホームページの「特集展示コーナー」から、展示資料の予約もできる。

23年度は、まだ図書館へ足を運んでいない人たちへの取組みとして、市内9ヶ所の高校に図書館ポスターの掲示を依頼した。成人の日に合わせて、「20歳の人へのパスファインダー」を作成し、図書館のほか、近隣書店やコンビニなどで配布した。また昨年度に引き続き、「大人ですから、道は自分で決める」というテーマでリストを作成配布し、巡回展示を行った。

図書館利用マナー向上のための取組みとして、全館で水ぬれや書き込み、切り取りのある資料展示とともに、落書き防止ポスター掲示を行い、利用者から多くの反響が寄せられた。

人権週間に合わせて、人権啓発にかかわる資料の展示も行った。

特集展示テーマ

- | | | |
|---------|-----------------|--------------|
| ○闘病記 | ○～あなたに～手紙に込めた想い | ○アジアが熱い |
| ○子どもの人権 | ○手づくりにこだわる | ○猫に大注目だニャン?! |
| ○日本の伝統 | ○グッジョブ!! | |



◆研修

「図書館地区別研修（近畿地区）」「障害者サービス研修」「中堅職員ステップアップ研修」「大阪府図書館司書セミナー」「大阪公共図書館協会研修」「大子連児童文化講座」等に参加し、図書館員として必要な専門性や技能の向上に取り組んだ。また、「とよなかブックプラネット事業」の進捗にあわせて、教育センターで行われた教諭・学校司書対象の研修に参加し、学校図書館支援サービスにつないでいる。

さらに、図書館は地域の一員として各種の協働事業に取り組んでいるが、図書館職員全体研修として「市民参画と協働のまち（図書館づくり）とは」を企画、市民とともに協働の原則について学ぶ機会とした。各地域別に行われた地域自治システムに関する説明会「どうする？どうなる？これからの地域コミュニティと地域の活動」にも積極的に参加した。

また、各地で図書館評価システムへの取組みも広がり、豊中市立図書館の事例発表の依頼が増え、講師として職員が出向く機会が増えた。

地域における暮らしの課題解決に資する「地域の知の拠点」の職員として、必要な資質や能力の向上および、図書館サービスの向上につなげるための研修を行っていく。

◆集会室

図書館主催行事や会議等で使用するほか、市民グループ活動のために集会室を提供している。図書館関係団体、読書関係団体、社会教育・文化関係団体、福祉および地域振興団体、官公署などが集会室を利用している。9館全体で2,807回、42,679人の利用があった。野畑をはじめ各図書館で地域コミュニティ活動の場として、多くの市民に利用されている。身近に集まることのできる場として、今後も提供を続けていく。



子どもと本のつどいパート2 「チリメンモンスターを探そう！」



すくすくおはなしタイム